

報道各位

2016年11月吉日

"BOWIE : FACES"実行委員会

### "BOWIE : FACES"展・プレス リリース

#### ○写真展概要

"BOWIE : FACES"展は、テリー・オニール、ブライアン・ダフィー、鋤田正義など、複数の有名写真家による、デヴィッド・ボウイ（1947.1.8 - 2016.1.10）の珠玉のポートレート、写真家とのコラボレート作品を紹介する写真展です。ちょうど1月8日は、彼が生きていれば70歳の誕生日、そして1月10日は1周年に当たります。また1月8日からは、英国ヴィクトリア&アルバート美術館企画による"DAVID BOWIE is"の巡回展が、東京天王洲の寺田倉庫 G1 ビルで開催されます。アジアでは東京のみの開催となります。"BOWIE : FACES"展の参加写真家全員が"DAVID BOWIE is"展にも協力しています。"BOWIE : FACES"展は、これらのボウイや彼のファンにとって重要な日程に合わせて開催されます。

ぜひ本展を通して、ボウイのヴィジュアル・アートへ与えた多大な影響の軌跡をご高覧いただくとともに、貴媒体においてのご紹介をよろしくお願いいたします。

#### ○主催 "BOWIE : FACES"実行委員会

#### ○開催日程

1. 代官山 鳥屋書店 <http://tsite.jp/daikanyama/>  
東京都渋谷区猿樂町 17-5 TEL03-3770-2525  
2017年1月6日（金）～2月7日（火）  
7:00～26:00 入場無料、会期中無休  
写真作品の2号館1階ギャラリースペースでの展示。
2. アクシスギャラリー・シンポジア（六本木 AXIS ビル地下1階）<http://www.axisinc.co.jp/>  
東京都港区六本木 5-17-1  
2017年2月10日（金）～11日（土）  
11:00～18:00 入場無料、会期中無休  
参加写真家の講演会、レセプションなどの開催を予定。
3. ブリッツ・ギャラリー（東京・目黒）<http://www.blitz-gallery.com>  
東京都目黒区下目黒 6-20-29 TEL 03-3714-0552  
2017年2月17日（金）～4月2日（日）  
13:00～18:00 入場無料、月曜および火曜休廊

○展示内容

各写真家の代表作、本展用限定作などのオリジナル・プリントを展示(合計約 25~35 点を予定)  
プリント付限定本" *BOWIE BY O'NEILL* " (テリー・オニール)、写真集、展覧会カタログなど

○展示予定写真家

ブライアン・ダフィー(Brian Duffy)、テリー・オニール(Terry O'Neill)、  
鋤田正義(Masayoshi Sukita)、ジュスタン・デ・ヴィルヌーヴ(Justin de Villeneuve)、  
ギスバート・ハイネコート(Gijsbert Hanekroot)、マーカス・クリンコ (Markus Klinko) など

○作品販売予定価格

- ・オリジナル・プリント ¥25,000~¥400,000.程度を予定。
- ・プリント付限定写真集 " *BOWIE BY O'NEILL* " ¥228,000 (税別)。
- ・写真集 " *Duffy Bowie - Five Sessions* "、" *Terry O'Neill's Rock'n Roll Album* "、  
" *Gijsbert Hanekroot: David Bowie - the Seventies* " など関連フォトブック。

○" *BOWIE : FACES* " 写真展カタログ

参加写真家の作品を収録したカタログを限定数制作して上記会場で販売予定。

○テリー・オニール氏の来日

2月のアクシス・シンポジアでの展覧会に合わせて来日予定。ただし健康状態によっては中止の可能性があります。  
来日した場合は、同氏の講演会、サイン会、レセプション・パーティーの開催を予定。

○主な展示作品：別紙のプレス掲載用写真をご参照ください。

○主な参加写真家のプロフィール

・ブライアン・ダフィー (Brian Duffy) (1933-2010)

ダフィーは、ロンドン出身のファッション・ポートレート写真家。70年代から80年にかけてデヴィッド・ボウイと5回の撮影セッションを行っています。"ジギー・スターダスト *Ziggy Stardust* " (1972年)、"アラジン・セイン *Aladdin Sane* " (1973年)、"シン・ホワイト・デューク *The Thin White Duke* " (1975年)、"ロジャー・ロジャー *Lodger* " (1979年)、"スケアリー・モンスターズ *Scary Monsters* " (1980年) です。特にアラジン・セインのアルバムジャケットに使用された写真は有名で、"ポップ・カルチャーにおけるモナリザ"とも呼ばれています。写真家ダフィーの名前を知らない人でもこの写真は見たことがあるでしょう。2013年夏、英国ロンドンのヴィクトリア&アルバート美術館で開催された" *DAVID BOWIE is* "展では、メイン・ヴィジュアルにアラジン・セインのセッションでのボウイが目を開いた未使用カットが使用され話題になっています。

### ・テリー・オニール (Terry O'Neill) (1938-)

オニールは、ロンドン出身。初期のザ・ビートルズやザ・ローリング・ストーンズ、そしてハリウッドの映画スターたちの秀逸なポートレートで知られる世界的な写真家です。

1973年、テリー・オニールはジギー・スターダストの最終公演に立ち会うメンバーとしてボウイに招待されました。テレビの特別番組として収録されたザ・マーキー（ロンドンのライブハウス）でのジギー・スターダスト最終公演は、オニールがすべての瞬間を撮影しています。

この歴史的な音楽パフォーマンス以来、約30年以上にわたり二人は共に仕事を行うこととなります。アルバム"ダイヤモンドの犬 *Diamond Dogs*" (1974年) のプロモーションに使用されたグレートデーン犬とボウイ、辛子色のスーツを着たポートレート (1974年)、小説家ウィリアム・S・バロウズとのツーショット (1974年)、映画 "地球に落ちてきた男 *The Man Who Fell to Earth*" (1976年) 撮影時のソフトハットとサングラス姿のオフショットなど。これらの非常に良く知られたボウイのイメージはテリー・オニールが撮影しています。オニールは常に天才ボウイのキャリア上の重要な瞬間にカメラを向けていました。

### ・鋤田正義 (Masayoshi Sukita) (1938-)

福岡県生まれ。写真家としてドキュメンタリーからファッション、広告、映画、音楽まで幅広く活動。

デヴィッド・ボウイと深い親交があり約40年以上にわたり彼を撮り続けました。特に"ヒーローズ *Heroes*" (1977年) のアルバムジャケット写真は有名です。この写真は"ザ・ネクスト・デイ *The Next Day*" (2013年) のジャケットにもアレンジされて使用されています。主な作品集には"氣 デヴィッド・ボウイ" (1992年)、"T.Rex 1972" (2007年)、"YELLOW MAGIC ORCHESTRA × SUKITA" (2010年)、"SOUL 忌野清志郎" (2012年)、"David Bowie & Masayoshi Sukita Speed of Life" (2012年) などがあります。

2012年には東京都写真美術館で"RETROSPECTIVE SOUND & VISION"展を開催。近年は英国ロンドンのヴィクトリア&アルバート美術館の"DAVID BOWIE is"展への参加をはじめ、ロンドン、パリ、ポーランド、メルボルン、ニューヨークなどで相次いで写真展を開催。2017年もベルリン等で写真展が予定されています。

### ・ジュスタン・デ・ヴィルヌーヴ (Justin de Villeneuve) (1939-)

デ・ヴィルヌーヴは、ロンドンのイーストエンド出身。非常に多彩なキャリアを持っており、ボクサー、ヘアドレッサー、インテリア・デコレーター、詩人、写真家、マネージャーなどとして活躍。60年代に日本でも大活躍したイギリス人モデルのツイッギーは、彼がマネージャーとして世に送り出したことで知られています。1973年、彼はボウイ初のカバーアルバム"ピンナップス *Pin Ups*"のジャケット写真をパリで撮影。ボウイとツイッギーが写った同作は、元々は雑誌Vogueのために撮影されたとのこと。

### ・ギスバート・ハイネコート (Gijsbert Hanekroot)(1945-)

ハイネコートはオランダ出身の写真家。1969~1983年にかけて"OOR", "Nieuwe Revu", "Margriet", "Viva"などの雑誌や新聞で活躍しました。写真は独学で学びんでおり、写真家のアシスタント時代に60年代後半に活動していたアメリカのバンド"The Outsiders"のライブを撮影したことがきっかけでロック・フォトグラファーの道を進み始めました。1970年~1975年にかけては、オランダの音楽専門誌"OOR"の最初の専属写真家としてミュージック・シーンを精力的に撮影。オランダを代表する写真家アントン・コーピンが彼のアシスタントだったこともあるそうです。

・ **マーカス・クリンコ (Markus Klinko) (1961-)**

クリンコは、スイス出身のファッション・ポートレート写真家。キャリア初期はクラシックハープ奏者として国際的に活躍。1994年の手の負傷を契機にファッション・フォトグラファーへ転向しています。雑誌編集者のイザベラ・ブロウヤ、"Interview Magazine"誌のイングリッド・シシーらに評価され、世界的に注目されます。以降、"Vogue"、"Vanity Fair"などで活躍しています。デヴィッド・ボウイと妻イマンもこの有望な写真家にチャンスを与えました。イマンの写真集"I am Iman" (2001年) とともに、ボウイの25枚目のアルバム"ヒーザン *Heathen*" (2002年) のジャケット撮影を依頼しています。

以上

お問い合わせ先

"BOWIE : FACES"実行委員会 (ブリッツ内) 担当 福川  
TEL 03-3714-0552 / E-mail: [info@bowiefaces.com](mailto:info@bowiefaces.com)  
本展オフィシャルサイト <http://bowiefaces.com>